

チゴハヤブサ（ハヤブサ科） 全長 オス 31センチ・メス 35センチ

大仙市北檜岡で、チゴハヤブサの雛2羽が元気に姿を見せた。

巣の場所は、NTT 無線鉄塔の上にあった。チゴハヤブサは自分で巣を作らず、他の鳥の空き巣を拝借する習性があります。ここは元々ハシボソガラスが作った巣であったが、子育ても終わり放置されていたものです。チゴハヤブサの繁殖時期が遅いのは、他の鳥の空き巣を利用するには好都合のようだ。

8月2日、順調に育った2羽の雛は、夏の暑さに耐えながら巣の縁に立っていた。メス親は、300mほど離れた神社の高木から見守っている。



離れた場所から雛を見守る。

やがて餌を持ったオス親がキーキーと鳴きながら、メスの元へと運んでいった。受け取った餌はムクドリくらいの大きさだ。メス親は雛が食べやすいように羽をむしり初めた。

餌を持って巣に入ると、雛が食べやすいように肉を細かく引きちぎり2羽に平等に与えていた。雛はまだ全身が白い綿毛（めんもう）に覆われているが、一日ごとに抜け落ち、やがて風切り羽が現れます。



周囲を警戒する鋭い目つき。



鉄塔の上で2羽の雛は元気に育っている。

一生のうち今が一番可愛く見える時（人間から見ると）ではないか。逞しい姿で大空を颯爽と飛び交うまであと少しです。



羽ばたきを始めた雛を優しく見つめる。



大きな目と鋭い嘴は猛禽類の風格があった。